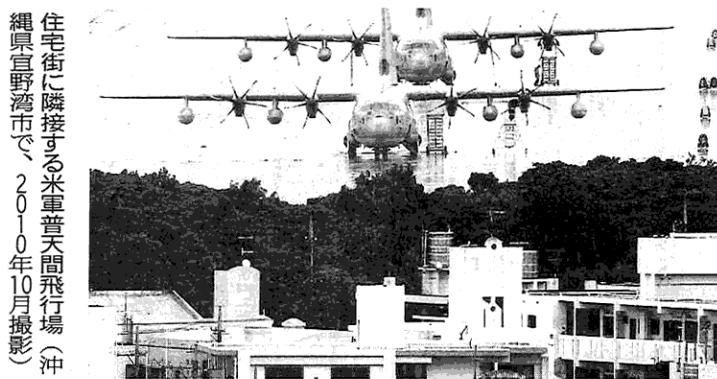


同盟再建へ足がかり



住宅街に隣接する米軍普天間飛行場（沖縄県宜野湾市で、2010年10月撮影）

自公政権時代	
2009年	民主党代表に鳩山由紀夫氏を選出。鳩山氏が記者会見で、普天間飛行場の県外移設を目指す考えを表明
民主党政権発足後	
9月16日	鳩山内閣が発足
2010年	沖縄県名護市長選で移設受け入れ反対派の稻嶺進氏当選
1月24日	5月28日 日米が普天間飛行場の辺野古移設を進めるとした共同文書を発表
6月 8日	菅内閣が発足
11月28日	沖縄県知事選で仲井真弘多氏が再選
2011年	東日本大震災。米軍が「トモダチ作戦」3月11日を展開
6月21日	日米両政府が辺野古へのV字形滑走路建設を決定
9月 2日	野田内閣が発足
11月29日	田中聰・沖縄防衛局長が不適切発言で更迭
12月12日	米議会軍事委員会両院協議会が在沖縄海兵隊のグアム移転関連予算凍結で合意
20日	日本政府が次期主力戦闘機に米国などが共同開発のF35を選定
27日	日本政府が武器輸出3原則の緩和を決定
28日	政府が環境影響評価書を沖縄県に提出
2012年	オバマ米大統領が新国防戦略を発表
1月 5日	13日 野田改造内閣発足。一川氏に代わり、田中直紀氏が防衛相に
31日	宜野湾市長選をめぐり、真部朗・沖縄防衛局長の講話問題が発覚

日米同盟と民主党政権をめぐる主なできごと（肩書きは当時）

米軍再編見直し

日米両政府は、2006年に決めた在日米軍再編計画の抜本見直しに動き始めた。野田政権は、計画見直しが沖縄の負担を軽減し、日米同盟の強化にもつながるとして前向きに受け止めている。ただ、交渉の要となるべき田中防衛相の資質不足が国会で批判され、沖縄では政府不信が高まるなど、同盟関係の重要な節目で政権がうまく対応できるのか、課題が多い。

（政治部 今井隆、黒見周平、本文記事一面）

「普天間」进展欠かせず

今回の計画見直しについて、政府内では「沖縄の海兵隊部隊が少しでも早く縮小され、沖縄の負担軽減が進めば、野田政権の得点になる」と首相周辺と前向きに受け止めている。09年

の民主党政権発足以降、日本同盟は普天間問題を契機に、根幹が揺らぎ続けてきたためだ。

「この政権は、マイナスからのスタートだ。外交でも鳩山・菅政権が作ったマイナスを早く清算する必要がある」野田首相は昨年9月の就任直後から、日米関係について

長島昭久首相補佐官は5

日、山口市での会合であいさつし、「日米関係、沖縄の基地問題が非常に良い方

向で動き始めた。今まで水

いて周囲にこう語り、立て直しに強い意欲を示してきた。今回始まった再編計画の見直しは、同盟立て直しの好機ともいえる。

グアム移転が先行実施されれば、沖縄のために両政

府が負担軽減に努力してい

る「証拠」を示せる。沖縄との関係改善をステップに、今春予定する首相訪米で日米同盟深化を世界にアピールする足がかりにもなる。

長島昭久首相補佐官は5

日、山口市での会合であい

さつし、「日米関係、沖縄の基地問題が非常に良い方

向で動き始めた。今まで水

スキャナー
SCANNER

野田政権 正念場

面下でやってきた努力が実りつつある」と述べ、計画見直しへの期待を示した。

ただ、日本政府にとって、正念場はこれからだ。グアム移転の規模縮小と先行実施は、米側の都合で進められている側面が強い。グアムだけが進むことで、06年

の日米合意の柱である普天間返還が宙に浮き、米軍嘉手納基地以南の土地返還などは縮小される恐れがある。海兵隊の移転についても、グアム以外も実現し、当初の合意通り「8000人」規模を実現できるかどうかは、今後の日本側のワ

シントンと沖縄との交渉次第だ。普天間移設は、在日米軍の再編、さらには、米軍の東アジアでの抑止力を支える日米同盟の根幹にかかわる問題だ。この問題で進展がない限り、同盟は実質的な強化に結実しない。

の日米合意の柱である普天間返還が宙に浮き、米軍嘉手納基地以南の土地返還などは縮小される恐れがある。海兵隊の移転についても、グアム以外も実現し、当初の合意通り「8000人」規模を実現できるかどうかは、今後の日本側のワ

長島氏は「米軍がアジア太平洋に戻る戦略が発表になり、もう一度大事な役割を果たすのが沖縄だ。何かを殴たすのが沖縄だ。何かを殴たすのが沖縄だ。何かを殴たすのが沖縄だ」と海兵隊の沖縄駐留の重要性を強調した。